

焦点 -FOCUS-



松井良重さん Matsui Yoshie san



チャイルドケアの事業すべてに参加、活動している松井良重さんにインタビュー

Q1. そもそも入会のきっかけは？

一タッチプログラム*で知り会った永井さんに「今度高座渋谷に『こども〜る』ができるのでスタッフに入らない？」と誘われたのが始まりでした。

Q2. それまで何かお仕事されていたのですか？

一家庭子ども相談室で保育士として在籍していました。

Q3. こども〜るのスタッフになって感じたことは？

一元気なお母さんたちと話ができて楽しいし、イマドキの情報がたくさん入るし、自分たちの時代とは違う事が多くて面白いです。

Q4. ファミサポはどうですか？どのようなサポートをしていますか？

一子どもと遊ぶのが楽しいですね。送迎や依頼会員宅での見守りです。お母さんのお仕事におうちでお子さんと遊んでいます。こども〜るでお母さんたちから得た情報がファミサポ支援で活かされています。

Q5. ホームスタートのビジターに手を挙げたのは？

一こども〜るで傾聴の重要性を知り、ホームスタートの「傾聴」の研修を受けたかったんです。そうしたら受講した人はビジターになってください！！と永井さんに言われ・・・

Q6. 5つの事業を担っていると忙しいのでは？

一バランス良く調整して活動しているつもりです(^_^;) 今まで10年間、夫の単身赴任をいいことに娘との3人暮らしで羽を伸ばし過ぎて、これじゃだめだなあと思って昨年12月に帰国してもらいました。やっぱり、子どもが大きくなっても父親、夫は必要だなあ〜と実感しているところ(笑)

Q7. ではますます忙しくなりましたね？

一はい、でも自分の趣味も大事にしています！宝塚の退団公演が続くと忙しくなるのでサポートも一時お休みさせていただきます。東京宝塚劇場通いははじまるんですね〜ウフフ。

※タッチプログラム・・・育児場面に応じた機能的なタッチを体験し、親の子育てやこどものことに対する理解を深めながら親子の愛情のきずなを育む参加型プログラム

ホームスタート事業・ホームビジター良重さんのつづき

近所のおばさんが赤ちゃんが生まれたおうちに様子を見に行くと、そんなホームスタートをやりたい。皆さんもホームスタートに参加してください〜



第36号 2021年3月31日発行

ワカズ・コレティブチャイルドケア 発行責任者 永井圭子

連絡先 大和市鶴間1-21-19 眞壁ビル3階 TEL 046-264-5726

『コロナ禍の設立20周年に』

2021年もコロナ禍の中で開けました。本来なら新年度を控え卒園卒業・入園進入学の涙と期待に満ち溢れるこの時期に、コロナの猛威はいまだ衰えず、私たちの命を脅かし生活に様々な影響を与えています。そのような状況下でも私たち会員はマスクや消毒、各自の体調管理をしながら、各事業で子どもたちお母さんお父さんたちを日々サポートしています。またチャイルドケアの事務所も一日も休まず動き続けています。

さて、昨年11月8日に開催したチャイルドケアの研修会には62名の会員が集うことができ、研修担当の工夫のおかげでとても充実した時間となりました。チャイルドケア設立20周年を迎えた今年度は記念式典は諦めていましたので、予想外の広いホールでチャイルドケアの歩みを共有できたことは私にとって忘れられない研修会になり感謝しています。

また20周年記念誌もようやく完成し配布することができました。若手会員のフィードバックとスキルに頼りながらベテラン会員たちの活動の記憶の中からレジェンドたちを掘り起こしたり、と10年前から更に成長したチャイルドケアを知る傑作です。ぜひ一読ください。

記念誌のついでと言っただけですが、パンフレットも作成中です。なんと20年間パンフレットがないまま活動を広げてきましたが、新年度よりさらに正会員・賛助会員の拡大を目指すためにパンフレットを活用したいと考えています。

5月に予定している総会では、役員は任期満了となり改選することになります。現在、議案書を作成中ですが、総会が無事終わりましたら折をみてチャイルドケアの活動をご報告します。

最後になりましたが、一日も早くコロナの感染拡大が終息することを願って...

理事長 永井圭子

チャイルドケア研修会

チャイルドケアが目指す「地域で子育ての輪」

2020.11.8 13:00-15:00 @保健福祉センター1階ホール



Aグループ

工藤美加子、宇津木朋子、荻山美枝子、太田恵美子、井田馨

①

- ・自分の経験と資格を生かしたい
- ・地域の人と話したいし教えてもらいたい
- ・自分ができると人と関わっていききたい
- ・「相互援助の気持ち」を大切にしたい

②

- ・自分のペースで頑張っていこうと思えた
- ・お孫さんを持つ世代の子育て観が聞けた
- ・今まで関わっていない方たちとの話が聞けて良かった

Bグループ

井田徳子、黒木ミヨ子、今田屋政子、窪野春江、小宮千菊、山本恵美子

①

- ・他市で支援会員を経験し、大和ファミサポのダイナミックさを実感した
- ・自分の身体の許す限り笑顔で支援したい
- ・娘の子育ての大変さを見て、孤軍奮闘しているお母さんの手伝いをしたいと思った
- ・周りの人や義父母の協力を得て子育てをした経験から自分も手を差し伸べたかった

②

- ・「お役にたきたい」という共通の思いが確認できて嬉しかった
- ・「今の子どもたちを見て切なくなる時がある」という葛藤や悩みを抱えての活動があることも知った
- ・いろいろな体験を聞いて驚きと発見がある出会いでした

Cグループ

石沢寿子、山崎佐由紀、阿多次子、上崎真千子

関口理枝、逢坂房子、菅原美智子

①

- ・地域のおばあちゃんとしてゆったりと接したい
- ・子どもは社会で育つもの、そのお手伝いを自分のできる範囲でやりたい
- ・悩むことも多かった子育てをたくさんの人に助けられたので自分も役にたきたい
- ・支援と言えるほどのことができるかわからないがお母さんと子どもが笑顔でいられるようにお手伝いしていきたい

②

- ・経済的援助が必要な家庭もあるという話がでた
- ・いろいろな事業のいろいろなサポートがあることを知った
- ・具体的なサポート内容が聞けて良かった
- ・皆さんの温かい気持ちが伝わってきた
- ・初めての研修会で、たくさんの方々が活動しているんだと実感した
- ・ホームスタートの方の話聞いて人間捨てたもんじゃないなと思えた

毎秋恒例の「ファミリーサポート♡フェスタ」がコロナ禍により開催中止となり、とは言えせっかくのホール使用予約を有効に使いたく「チャイルドケア研修会」に変更しました。スタッフ一同感染対策怠りなく、当日を迎えました。

チャイルドケアでは全事業が一堂に会しての研修会はこれが初めてのことでした。そこで講師として理事長の永井圭子さんから、チャイルドケアの出発点、現在の活動、新たな事業への意気込みを語っていただきました。予定通りきっちり50分の講話の後、各事業や担当者が永井さんから紹介されました。10分の休憩をとり、グループトークに入りました。

『私の、子育て支援に対する思い』のテーマで意見交換し、正会員同士のコミュニケーション、各事業の理解を深めました。

そして全員にアンケート提出をお願いしました。

設問①あなたの子育て支援の思い 設問②グループトークでの感想

Dグループ

清原裕子、辻村まさみ、森内慶子、小林有希子、大八木直子

①

- ・子育て中に支援員の言葉に助けられたので、今、自分が支援する立場になって嬉しい
- ・ファミサポを利用していたので自分も役に立ちたいと思った
- ・孫ができ、乳幼児に関心を持つようになった
- ・親の介護もあるが、できるようになったら活動したい
- ・1人で寂しく不安な子育て期を過ごしたので、そんな人を一人でも減らしたい

②

- ・いろいろな立場で子育て支援を楽しめたらいいなあと思った
- ・傾聴の大切さがわかって、もっと勉強したいと思った
- ・民生委員の人、チャイルドラインに関わっている人、こども～るメンバー、と様々な人から話を聞いた

Eグループ

福田利津子、北條有以子、佐藤伊津子、伊藤典子、酒寄佳子

①

- ・子どもが健やかに育つための手伝いをしたい
- ・子どもを他人に預ける勇気に信頼を持って応えたいし楽しみたい
- ・親子との触れ合いの中で微笑む自分がある
- ・地域で孤立する親子がいないよう、明るく楽しく子育てができるよう応援したい

②

- ・参加のきっかけはそれぞれでも、子育てを助けてあげたい、細く長く続けたいという共通点があった
- ・進行係の方がほんのリテキパキと進めて下さり、皆さんの支援に対する正直な気持ちが聞けた

Fグループ

佐藤綾子、天川郁子、長谷川喜代美、岡野真理子、柏木和代、川崎千鶴、塩谷名帆子

①

- ・実家が遠く頼れる人がいなかった自身の経験があるので、子育てをお手伝いしたいと思った
- ・支援の親子と触れ合うことで勉強になることが沢山ある
- ・子育てに少し余裕ができたところ声をかけてもらった
- ・これからの子育てにはこども～るのような場所が必要だと思っていたので、携わることができて嬉しい

②

- ・いろいろな立場の人がこうして顔を合わせる事ができて良かった
- ・キャリアのある方たちばかりでとても参考になった
- ・チャイルドケアも若いエネルギーいっぱいスタッフが増え、頼もしいと感じた

Gグループ

山口裕美、今井亮子、浜脇麻起子、高橋桂子、鈴木ミユキ

①

- ・日常の合間にできる些細なサポートを今後も長く続けたい
- ・学習支援をしていて、子どもがすくすく育つ社会のために役立ちたいと考えている
- ・支援することで親子の気持ちにゆとりができ、結果楽しく子どもと向き合える親が増えたら嬉しい
- ・子どもが好き！幼い子に癒される！
- ・専門職として悩みを抱えている方たちのお役にたてば、と思う

②

- ・「自分のできる範囲で何かしら子どもと関わっていききたい」という思いが伝わってきた
- ・普段はなかなか聞けない他事業の方のはなしを聞いて楽しかった
- ・アドバイザーの方々の経験談が聞けて参考になった

Hグループ

松井良重、廣田昭博、秋谷うた子、鈴木佐和子、永井圭子

①

- ・各々持っている経験を活かして支援を行っていくものだと思う
- ・初めは空いた時間にお小遣い稼ぎくらいの気持ちだったが続けていくうちに役にたっているという実感を持ち、これからも頑張りたいと思っている

②

- ・ホームスタートの必要性を感じた
- ・ホームスタートのことを初めて知ったのでこれから学んでいきたいと思った

Iグループ

草柳栄子、岩城公子、今田利美、島田ひろみ、河野理絵、西村佑子

①

- ・自身の生活に合わせてサポートするボリュームも変わってくるがこれからは細く長くお手伝いしたい
- ・仕事などで子どもと関わる時間が足りない保護者のフォローをしたい
- ・友だちがファミサポに助けられたという話を聞き、いつか携わろうと思っていた
- ・障がい児支援を続けてきて、障がいがあってもなくてもどの子どもも愛情をもらって地域の中で育ててほしいと思う
- ・自身の健康と家族の理解・協力あつての活動と思っている
- ・自分の子育ては沢山の人の支えられたので、自分のできることで子育てのストレスを和らげてもらえたら、と思う

②

- ・それぞれの「思い」を聞きチャイルドケアの活動は貴重だと改めて感じた
- ・支援される側だけでなく、支援する側も癒されている
- ・会員になったきっかけや日頃のサポート内容、困ったこと、新たな出発などが聞けて参考になった
- ・円形になれず苦しい体勢でのトークだった

Jグループ

千葉祐子、渡部チイ子、大谷泰子、武田はつ子、白川美香、船崎実余子、飯島利栄子

①

- ・自分が子育てをしている時に周りの方々に助けていただいたので、自分も次の世代の手伝いをしたいと思った
- ・地域と繋がって社会の一員として過ごしていきたいと思う
- ・仕事の傍らでの支援ですが、小さい子を抱えて仕事をされている方、ワンオペ育児の方の気持ちはすぐ分かるので少しでも力になりたい
- ・子育て経験を生かして子どもと接しているが、時代によって育児も変わってくるので臨機応変にやっていく

②

- ・サポートでの疑問点も話し合えた
- ・車送迎でのヒヤリハットの話がでて他人事ではないと思った
- ・困ったことはコーディネーターに相談するように、とお話ししました

